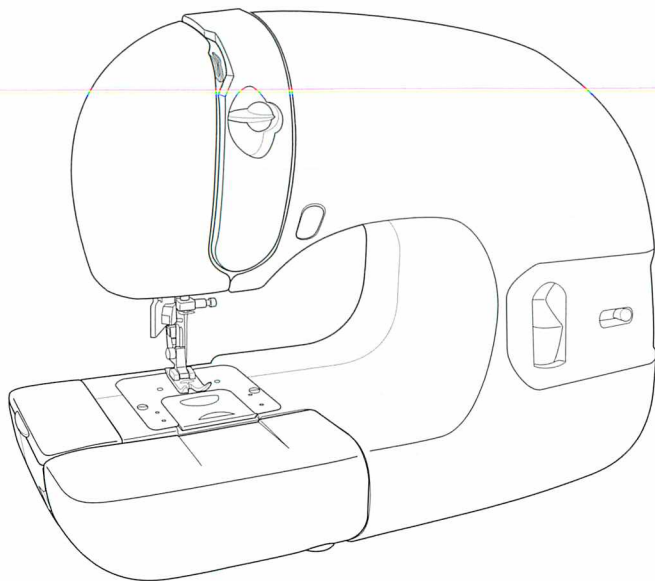


取扱説明書

型式: **YM-81A**タイプ



安全にお使い
いただくために

使用上の注意

各部のなまえと
はたらき

縫うための準備

縫って
みましょう

お手入れの
しかた

こんなときは
(調子が悪いとき)

サービス工場
のご案内

AME
株式会社 アックスアマザキ

このミシンを安全にご使用いただくため、「取扱説明書」をご使用前に必ずお読みください。また、「取扱説明書」はお手元に保管し、末長くご使用ください。



もくじ
安全にお使いいただくために
 表示の説明 1
 警告 2
 注意 3
使用上の注意 4
 守っていただきたいこと 4
各部のなまえとはたらき
 本体（前面） 5
 本体（背面） 6
 補助テーブルのはずしかた 6
 フリーアームの使いかた 6
 付属品 7
縫うための準備
 針と糸、布の関係 8
 正しい針の選びかた 9
 針の取りかえかた 9
 押えのはずしかた 10
 押えの取り付けかた 10
 電源コード接続の前に 11
 電源を入れる 11
 ミシンをスタートさせる 12
 ボビンの取り出しかた 12
 下糸の巻きかた 13~15
 下糸のかけかた 16
 上糸のかけかた 17~19
 糸通し器の使いかた 20~21
 下糸の引き上げかた 22
 模様の選びかた 22
 模様の種類 23

もくじ
縫ってみましょう
 ためし縫い 24
 返しぬい 25
 縫い方向のかえかた 25
 厚い布の縫い始め / 段縫い 26
 上下糸調子の取りかた 26~27
 ジグザグ縫い模様 / 縁かがり 28
 ボタンホールの作りかた 28~29
 まつり縫い 30
 点線ジグザグ縫い 31
 パッチワーク 31
 伸縮強化縫い 32
 アププリケ 32
 お手入れのしかた 33~34
 こんなときは（調子が悪いとき） 35~36
 サービス工場のご案内 36
 修理サービス要領 37
 仕様 37
 保証書 最終







このたびはミシンをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
 このミシンには、直線縫いやジグザグ縫いはもちろん、まつり縫いやボタンホールを作ることのできる模様が装備されている家庭用ミシンです。
 このミシンの特徴をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「取扱説明書」をよくお読みください。
 この「取扱説明書」は、保証書とともに大切に保管してください。
 このミシンは、皆様に常に最新の縫製性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観やデザイン・付属品を変更することがあります。

安全にお使いいただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
 このミシンは日本国内向け、家庭用ミシンです。 For use in Japan only.

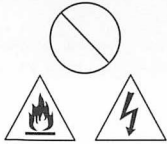
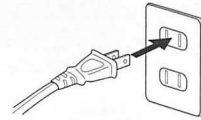


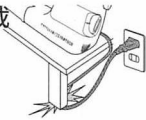





	警告	この表示を無視し誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。
	注意	この表示を無視し誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じるおそれがある内容を示しています。

この説明書で使用している絵文字の意味

危険性を促す記号					
	火災の原因になります		感電の危険性があります		ケガの危険性があります
行為を「禁止」する記号					
	してはいけないこと		分解禁止		
行為を「指示」する記号					
	必ずすること		電源プラグをコンセントから抜く		

●取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

警告 死亡・火災・感電の恐れがあります。

 <p>火災・感電の恐れがあります。</p>	<p>一般家庭用電源AC100ボルト以外は絶対に使わないでください。</p> 
	<p>電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。</p> 
	<p>傷付いたり、溶けて線がむき出しになった電源コードを使わないでください。</p> 
	<p>電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。 *コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正の電源コードをお買い求めください。</p> 
	<p>延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。</p> 
 <p>火災・感電の原因となります。販売店・サービスセンターにご連絡ください。</p>	<p>発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源を切り、電源プラグを抜いてください。</p> 
	<p>落としたり正常に作動しないときは、電源を切り、電源プラグを抜いてください。</p> 
	<p>ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源を切り、電源プラグを抜いてください。</p> 

注意 ケガや損害を生じる恐れがあります。

	<p>電源コードを抜くときはプラグ部分を持って行ってください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</p>
	<p>電源コードはミシンに巻きつけないでください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</p>
	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</p>
	<p>不安定な場所に置かないでください。</p>
	<p>動作中に、はずみ車・針・天ピンに手を触れないでください。手や指が挟まったり、針が刺さるなどのけがの原因になります。</p>
	<p>曲がった針は使わないでください。針が折れ、ケガの原因になります。</p>
	<p>すべり板を開けたままミシンを操作しないでください。</p>
	<p>縫製中に布を無理に引っ張ったり押ししたりしないでください。手や指が挟まったり、針が刺さるなどのけがの原因になります。</p>
	<p>ミシンを使用しないときは、電源プラグを抜いてください。絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になる恐れがあります。</p>
	<p>ミシンから離れたり使用を中断するときは、電源プラグを抜いてください。火災の原因になる恐れがあります。</p>
	<p>幼児の手が届かない場所に保管してください。針や押えなどの突起がケガの原因になる恐れがあります。</p>
	<p>糸のセットをするときやミシンのお手入れをするときは電源スイッチを「OFF」にしてください。作業途中にミシンが動く恐れがあり、ケガの原因になります。</p>
	<p>ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。</p>
	<p>交換した針を放置しないでください。</p>
	<p>お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するとき特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。</p>
	<p>針・押え・アタッチメント・ランプを交換するときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。作業途中にミシンが動く恐れがあり、ケガの原因になります。</p>
<p>屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。</p>	

長くお使いいただくため、次のことを守ってください。

業務用や縫製以外の目的にはご使用にならないでください。

極度の部品磨耗や破損につながります。

守っていただきたいこと



注意



ケガや損害を生じる恐れがあります。

曲がった針を使わない

曲がった針を使うと、ケガや部品破損の原因になります。

針穴に刺さらず折れた針が飛び、ケガをする恐れがあります。

押えや針板に傷をつけ、糸がらみや糸調子があわなくなります。

このミシンで縫えないもの

次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因になります。

木・プラスチック・金属などの板

ぬれた布・あらい網(魚網など)

はずみ車を手で回しても、針が刺さりにくい布

厚さ6mm以上の布

保管時の結露(つゆつき)について

寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露(つゆつき)が起こることがあります。

結露がなくなるまで、電源を入れずにお待ちください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。

直射日光・熱気をさける

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

糸がらみのとき、糸・布を引っ張らない

針や部品を破損します。

絡んだときは針板をはずし、針糸と針板裏側の糸を切ると布がはずれます。

ミシン表面のお手入れ

プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸して固く絞ってふき取ってください。その後、必ず乾いた布で仕上げてください。

ベンジン・シンナー・ワックスなどでは拭かないでください。

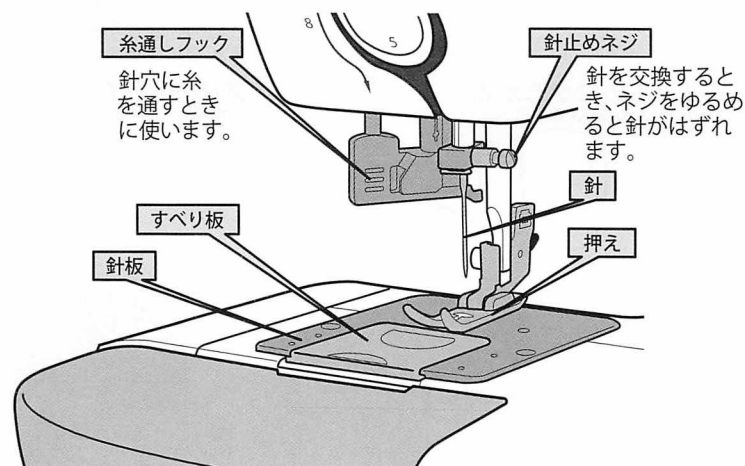
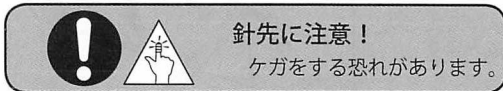
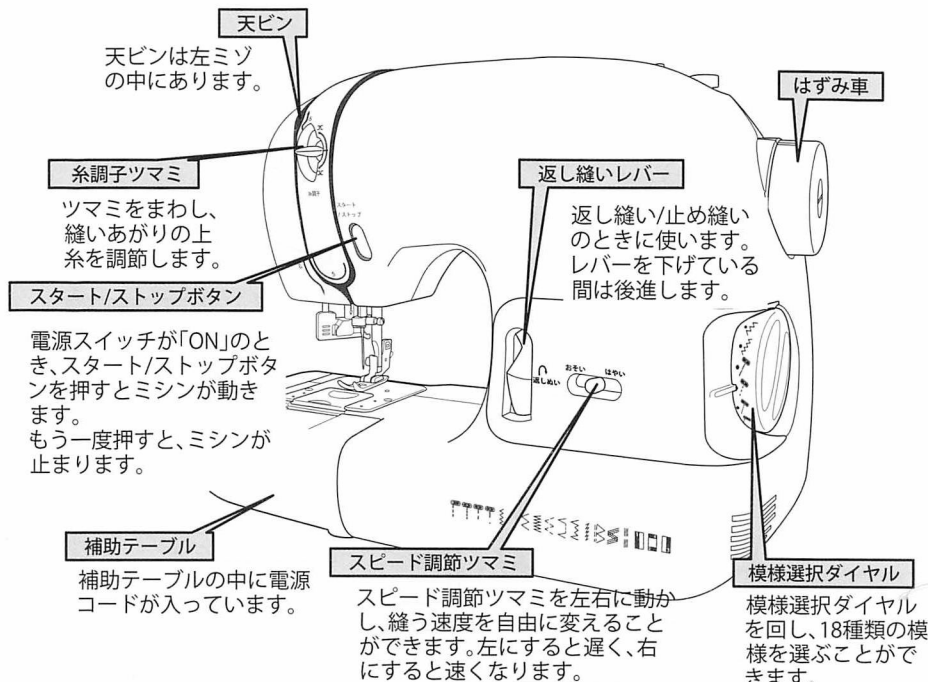
説明書で指定された部分以外の分解・改造をしない

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損につながります。

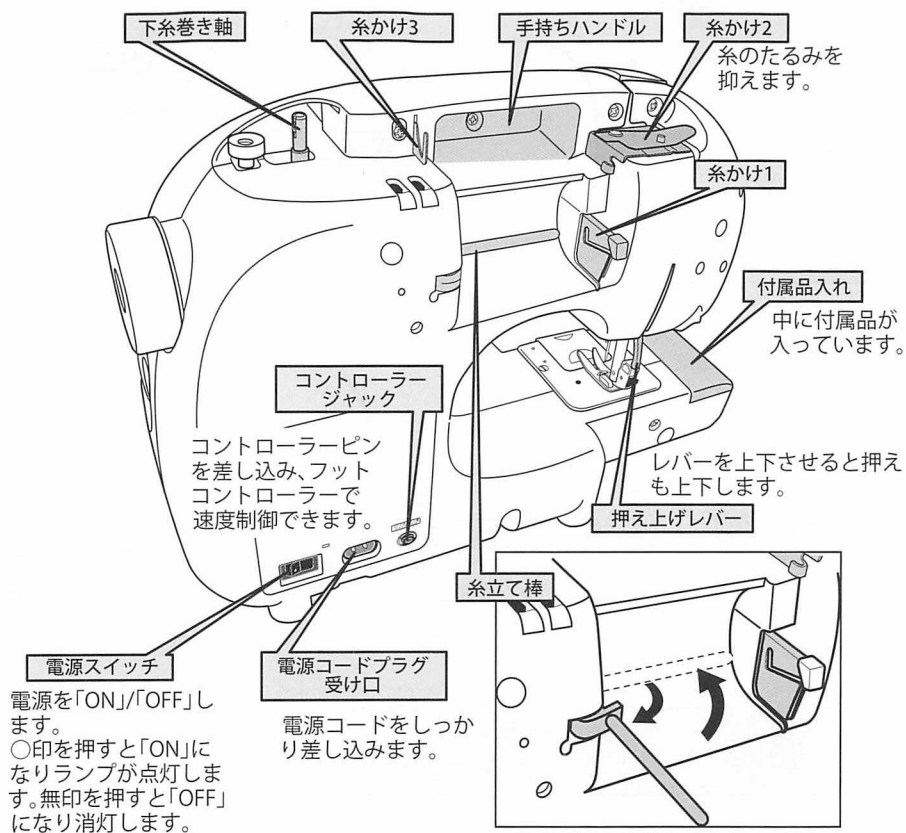
長期間ご使用にならないとき

長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着により機能に支障をきたす場合があります。定期的にミシンを動かすと油の乾燥・固着を未然に防ぐことができます。

本体(前面)



本体(背面)



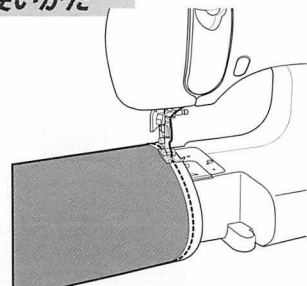
糸立て棒の先端を引き出し、糸コマの糸止め側から挿入します。

補助テーブルのはずしかた/取り付けかた



補助テーブルは左に引き抜くとはずれ、右に差し込むと取り付けられます。

フリーアームの使いかた



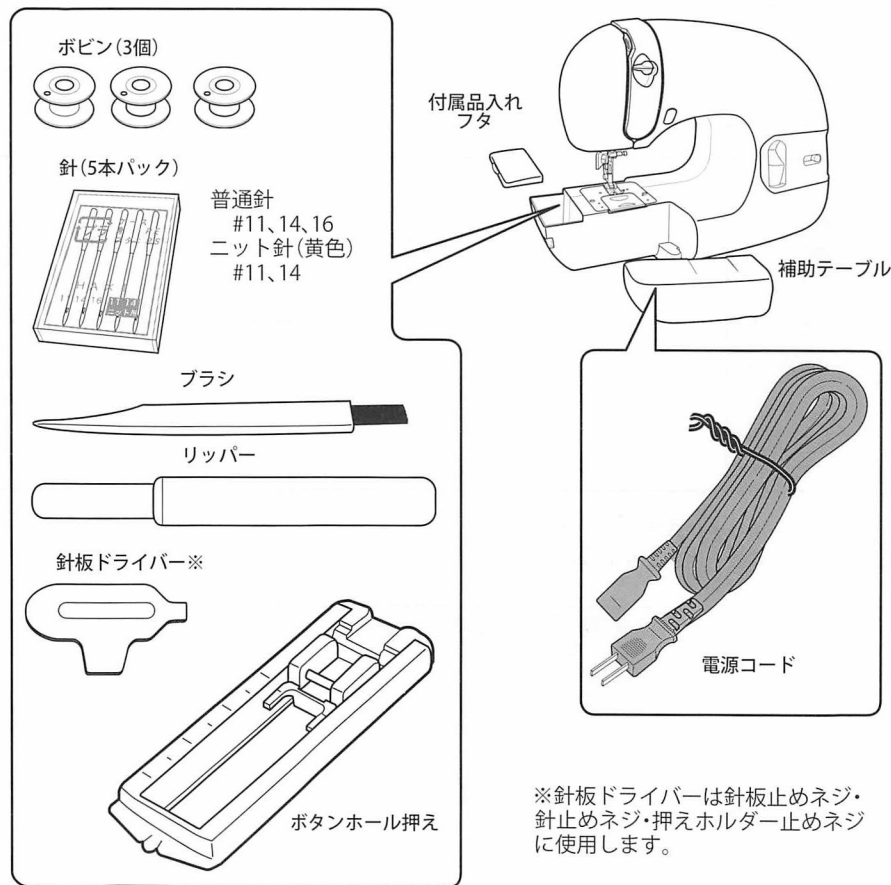
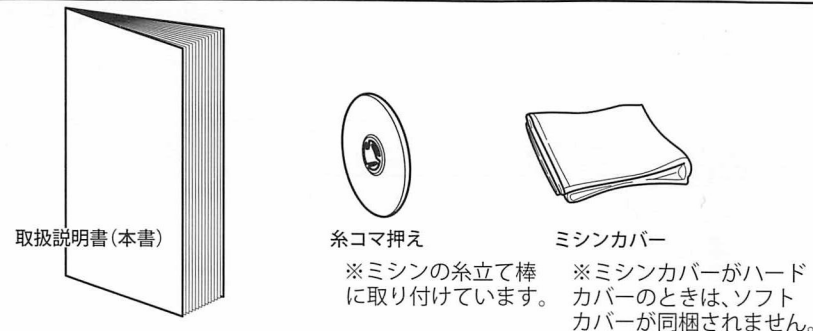
補助テーブルをはずし、袖やすそなどの筒ものを差し込みフリーアームベッドとしてお使いいただけます。

付属品



注意

同梱している付属部品でお子様がケガをする恐れがあります。



※針板ドライバーは針板止めネジ・針止めネジ・押えホルダー止めネジに使用します。

針と糸、布の関係

工場出荷時、ミシンには14番の普通針が装備されています。(その他、付属の針は8ページ参照)



- ・上糸と下糸は同じ種類・同じ太さのものをご使用ください。
- ・針は家庭用ミシン針(HA×1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定ください。
- ・きれいに縫うためには、布にあった針と糸をご使用ください。

布の種類		糸の番号 *1		針の番号 *2
薄地	薄地ジョーゼット、ボイル、タフタ、オーガンジー、絹布など	綿 絹 化繊糸	80~100 60~80 80~100	9~11
普通布	さらさ木綿、薄手コーデュロイ、ピケ、ギンガム、リンネル、サテン、ベッチン、一般服地など	綿 絹 化繊糸	50~80 50 50~80	11~14
厚布	ギャバジン、ツイード、キルティング、デニム、コーデュロイ、タオルなど	綿 絹 化繊糸	40~50 50 50~60	16
伸縮地の布	ダブルニット、トリコット、スパandex、ジャージなど	綿 化繊糸 ニット用糸	60 50~80	ニット用針 11~14

*1: 糸は数字が大きくなるほど細くなります。

*2: 針は数字が大きくなるほど太くなります。



針先に注意!

ケガをする恐れがあります。

正しい針の選びかた



注意



曲がった針を使わない

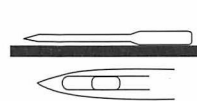
ケガをする恐れがあります。



- ・針は家庭用ミシン針(HA×1)を使う
- ・上糸と下糸は原則的に同じ種類・同じ太さのものを使う

1. 目飛びや糸が絡む場合は、ミシンについている針の先端が曲がっていたり、つぶれていないかを確認してください。
2. 不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく針板やカマに傷をつけます。新しい針に交換してください。

○ 正しい針



× 悪い針



全体に曲がっている



先端のつぶれ



先端の曲がり

※ガラスのような平らな面に置き、針の曲がりを確認してください。

針の取りかえかた



注意



・電源プラグを抜く

突然動く恐れがあります。



・針先に注意!

ケガをする恐れがあります。

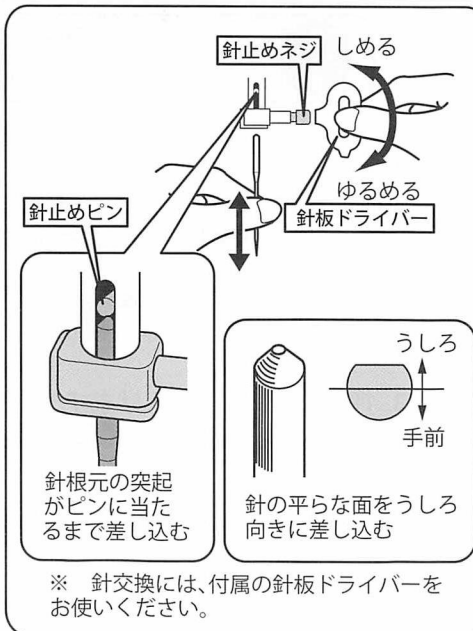
1. はずみ車を手前に回し、針を上げます。

2. 針をはずします。

取り付けられている針を持ち、針止めネジをゆるめ、針を下に引き抜きます。

3. 針を取り付けます。

平らな面を自分から見えないように持ち、図のように針棒のピンに当たるまで差し込み、針止めネジを締めます



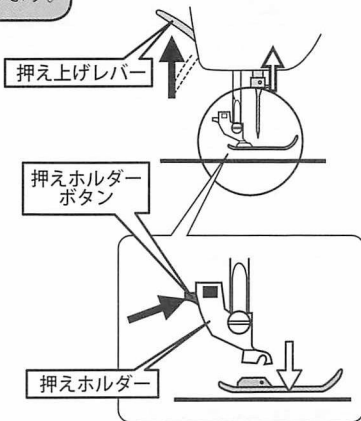
※ 針交換には、付属の針板ドライバーをお使いください。

押えのはずしかた

注意 **電源プラグを抜く**
突然動くとケガをする恐れがあります。

針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

1. はずみ車をまわし、針を上げます。
2. 押え上げレバー(白色レバー)を上げます。
押えが上がります。
3. 押えホルダーボタン(黒色ボタン)を押します。
押えが押えホルダーからはずれます。

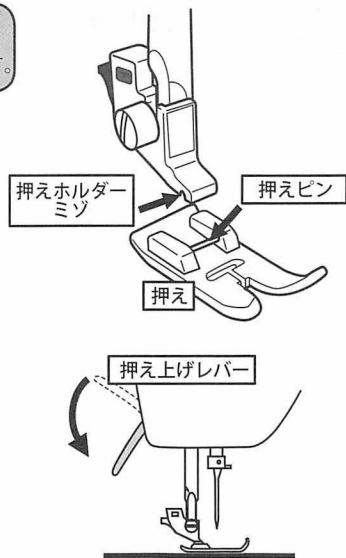


押えの取り付けかた

注意 **電源プラグを抜く**
突然動くとケガをする恐れがあります。

針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

1. はずみ車をまわし、針を上げます。
2. 押え上げレバーを上げ、押えホルダーミゾと押えピンの位置をあわせます。
押えホルダーミゾと押えピンの位置があっていないと押えが取り付けられません。
3. 押え上げレバーを下げます。カチッと音がすれば押えが装着できています。
押えが取り付けられていない場合は、押えホルダー溝と押えピンの位置をもう一度あわせなおしてください。



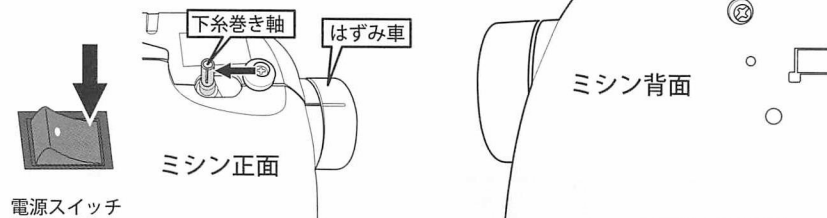
電源コード接続の前に

注意 **電源プラグを抜いておく**
突然動くとケガをする恐れがあります。

- ・安定した場所に置く
- ・作業スペースを十分に確保する
- ・周囲に物を置かない

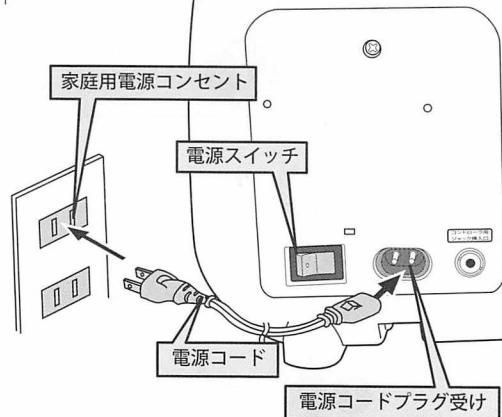
マシンを持ち運ぶ際には、後面の手持ちハンドル部分に手をかけて持ち運びます。

1. 電源スイッチを「OFF」にします。
2. 下糸巻き軸(マシン上部はずみ車側)をマシン正面から見て左に寄せます。(軸が右に寄っていると動きません)



電源を入れる

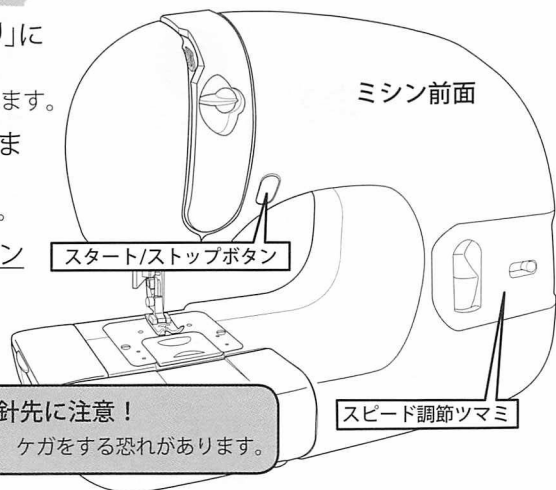
1. 電源コードのプラグをマシン本体のプラグ受けに差し込みます。
2. 電源コードの反対側のプラグを電源コンセントに差し込みます。
3. 電源スイッチを「ON」にします。
照明ランプが点灯します。



警告 **電源コードはプラグ部分を持ち抜き差しをする**
死亡、火災、感電の恐れがあります。

ミシンをスタートさせる

1. スピード調節つまみを「ゆっくり」にします。
慣れるまではスピードを遅くします。
2. スタート/ストップボタンを押します。
ミシンがゆっくり動きだします。
3. もう一度スタート/ストップボタンを押します。
ミシンが針上で止まります。



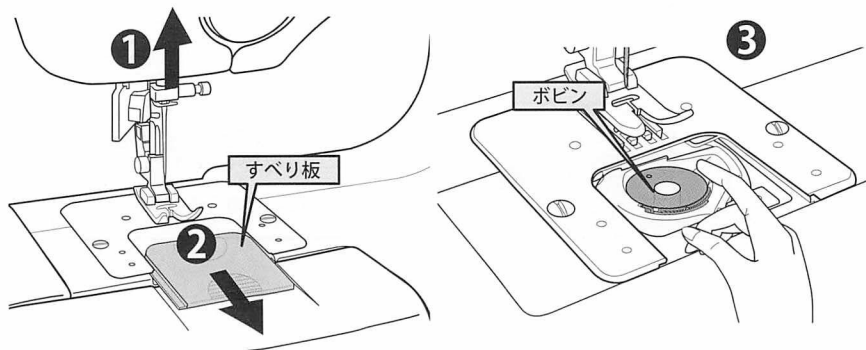
針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

ボビンの取り出しかた

注意 電源スイッチを「OFF」にする
突然動くとケガをする恐れがあります。

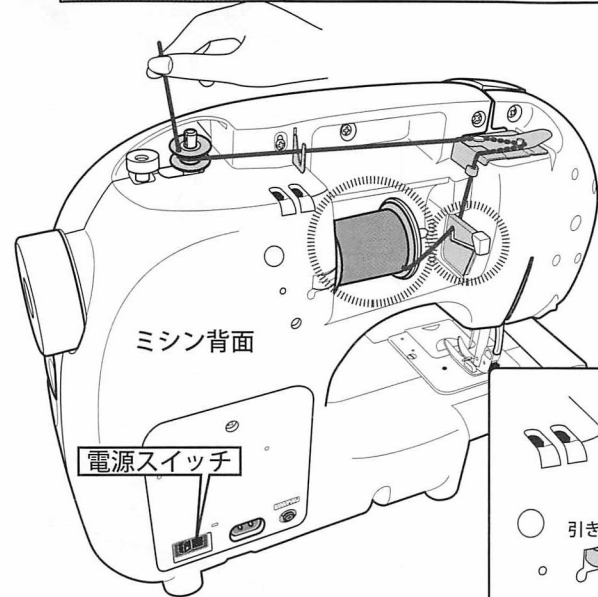
針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

1. はずみ車を手前に回し、針を一番高い位置まで上げます。
2. すべり板を手前に引き、開きます。
3. ボビンケースの中のボビンを取り出します。



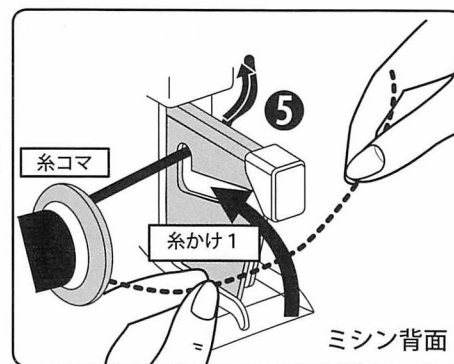
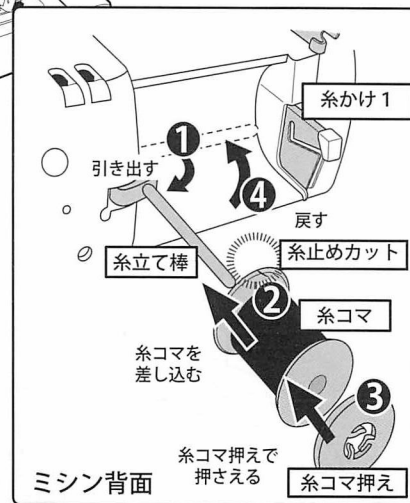
下糸の巻きかた

注意 電源スイッチを「OFF」にする
ケガをする恐れがあります。



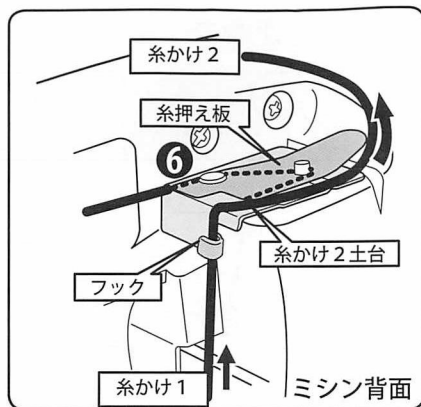
下糸を巻きます。

1. ミシン後面にある糸立て棒を引き出します。
2. 糸コマの糸止めミゾをはずみ車側に向け奥まで差し込みます。
糸が引き出される時に、糸止めカットに引っかからないようにします。
3. 糸コマ押えの膨らみを糸コマに向け、抜けないように押さえます。
4. 糸コマをセットしたあと、糸立て棒を戻します。
5. 糸コマから引き出した糸を糸かけ1に差し込みます。
糸かけ1のミゾ奥から糸が出るようになります。



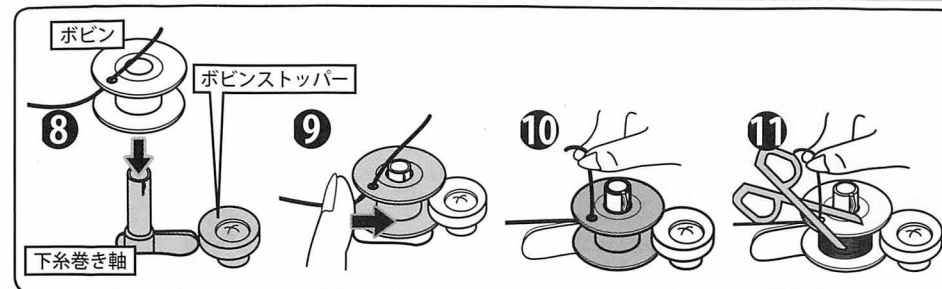
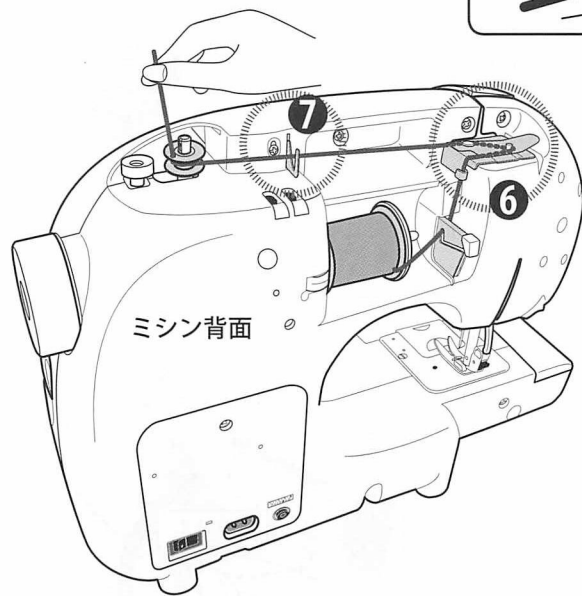
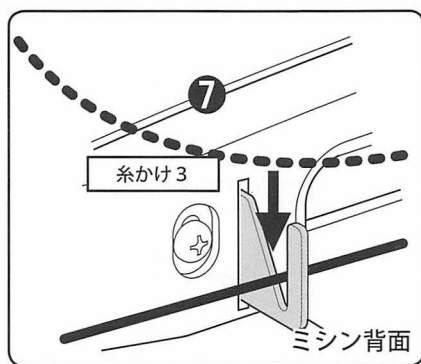
6. 糸かけ1から糸かけ2のフック部を
経由して糸押え板と土台の間に糸を
かけます。

ボビンに巻く糸がゆるまないように、
糸押え板が糸を押えています。

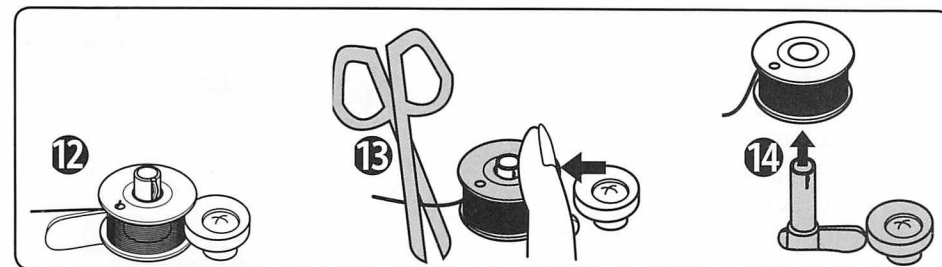


7. 糸かけ2から糸かけ3へ糸をかけます。

糸かけ3がボビンの糸を均一に巻きます。

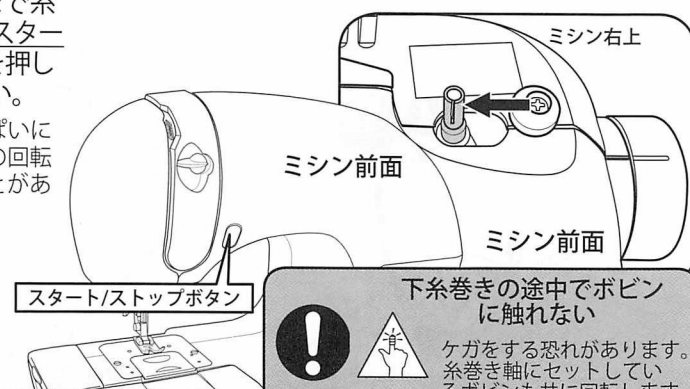


8. 図のようにボビンの内側から糸を通し、糸巻き軸に奥まで差し込みます。
9. 糸を通したまま糸巻き軸を右に寄せます。
10. 糸端を持ち、スタート/ストップボタンを押します。
糸巻き軸が回転します。
11. ボビンに糸が少し巻けてから、スタート/ストップボタンを押し、停止させます。持っていた糸を切ります。



12. もう一度、糸巻き軸をスタートさせ、ボビンに80%ほどになるまで糸を巻き、スタート/スタートストップボタンを押して停止してください。
13. 糸巻き軸を左側に戻し、糸を切ります。
14. 糸の巻き上がったボビンを抜きます。

糸がボビンいっぱい
巻けてもボビンの回転
が止まらないことが
あります。



! 下糸巻きの作業途中では針・天ピンに手などを近付けない
ケガをする恐れがあります。突然動く危険です。

! 下糸巻きの途中でボビンに触れない
ケガをする恐れがあります。糸巻き軸にセットしているボビンも共に回転します。

! 下糸巻きの作業中は針が止まります。

下糸のかけかた



注意



電源スイッチを「OFF」にする
ケガをする恐れがあります。

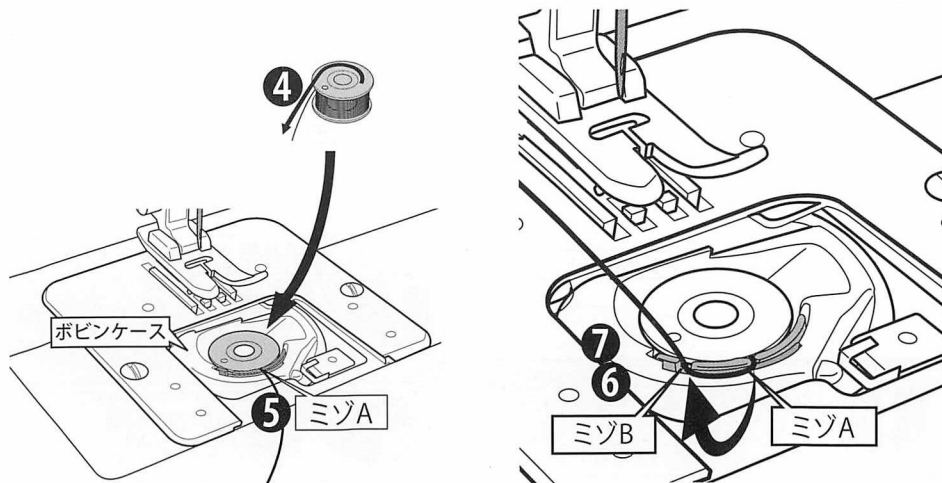
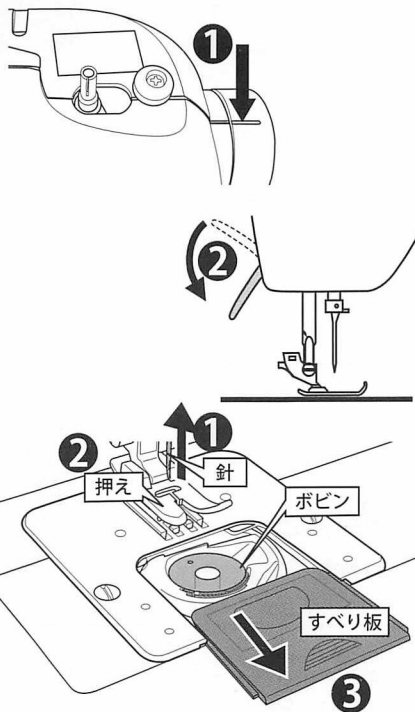


針先に注意!

ケガをする恐れがあります。

ボビンケースに下糸をセットします。

1. はずみ車を手前に回し、針上位置マークをあわせませす。
針・天ピンが上がります。
2. 押え上げレバーを上げます。
3. すべり板を開きます。
4. ボビンから糸を10cmほど引き出し、ボビンの左側から糸が出るようにしてボビンケースにセットします。
5. ボビンを指で軽く押さえ、引き出した糸をミゾAにかけます。
6. かけた糸を手前に引き、ミゾAからミゾBへすべらせませす。
7. 糸はしをミゾBの上ののせ、矢印の方向に10cmほど引き出しておきます。
8. すべり板を閉めます。



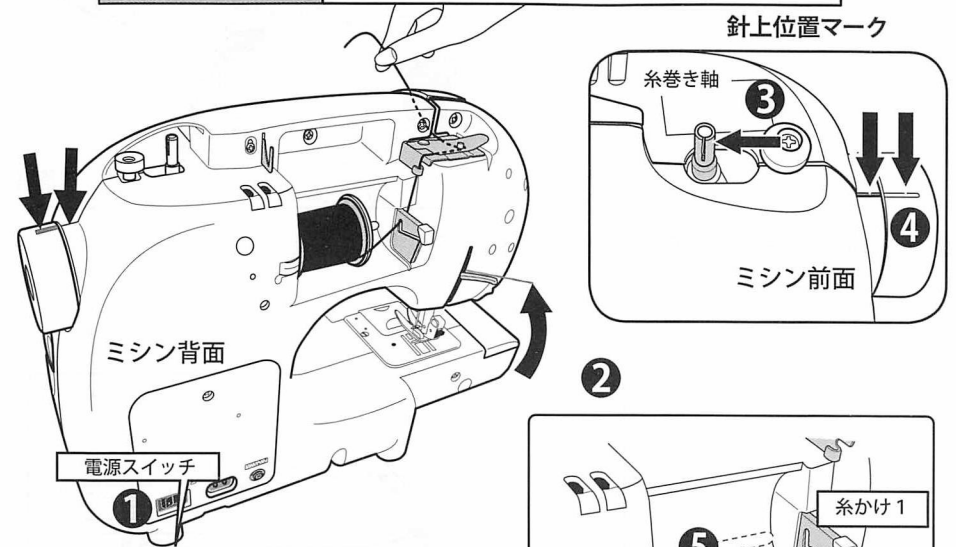
上糸のかけかた



注意

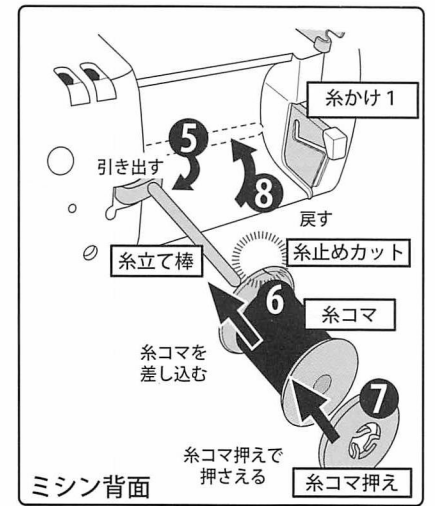


電源スイッチを「OFF」にする
ケガをする恐れがあります。



上糸(針糸)をセットします。

1. 電源スイッチを「OFF」にします。
糸かけをしているときにスイッチに触れてしまい、突然動く恐れがあるためです。
2. 押え上げレバーを上げます。
押えが上がります。
3. 下糸巻き軸を前面から見て左側にします。
下糸巻き軸が左側のときは針が上下(運針)し、右側のとき針は上下せず、糸巻き軸が回転(ボビンの糸巻き)します。
4. はずみ車を手前に回し、針上位置マークをカバーの線にあわせませす。
針が一番高い位置になります。
5. ミシン後面にある糸立て棒を引き出します。
6. 糸コマの糸止めカットをはずみ車側に向け奥まで差し込みませす。

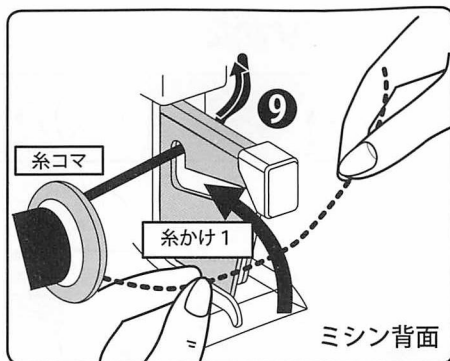


糸が引き出されるときに、糸止めカットに引っかからないようにするためです。

7. 糸コマ押えの膨らみを糸コマに向け、抜けないように押さえませす。
8. 糸コマをセットしたあと、糸立て棒を戻します。

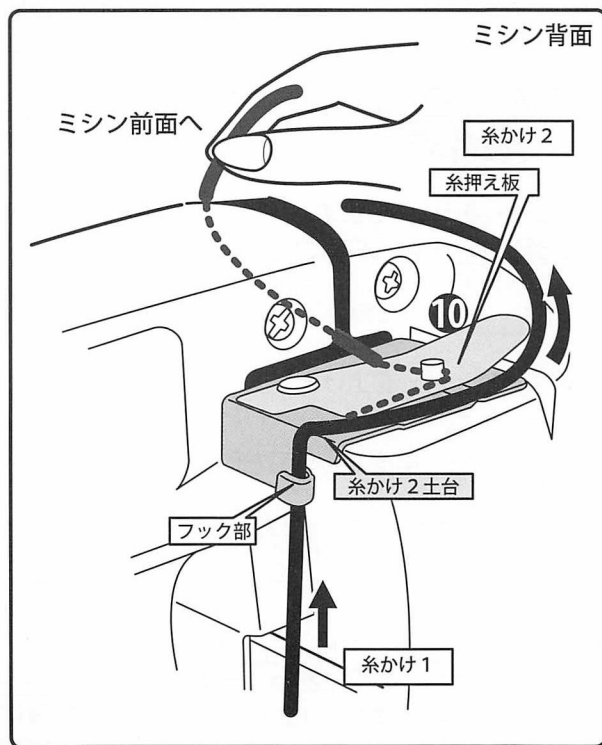
9. 糸コマから引き出した糸を糸かけ1に差し込みます。

糸かけ1のミゾ奥から糸が出るようになります。糸かけ1は糸コマからスムーズに糸が繰り出されるようにするものです。



10. 糸かけ1から糸かけ2のフック部を経由して糸押え板と土台の間に糸をかけます。

糸かけ2は上糸のねじれを取り除き、上糸がスムーズに送り込まれるようにするものです。



11. 押えが上がっていることを確認します。

押えが下がったまま糸かけをすると、上糸調子が効かず、布裏がタオル状になり糸がからみます。(上下糸調子のあわせかた参照)

12. 前頁の糸かけ2からミゾAにそって下端まで糸を引き下げます。

13. ミゾAの下端から左側のミゾBに移動し、下図のように天ビン右側のカバー側面をすべらせ、ミゾ頂点*まで進めます。

14. ミゾBの頂点*から糸を天ビン左側のカバー側面に下端まですべさせます。

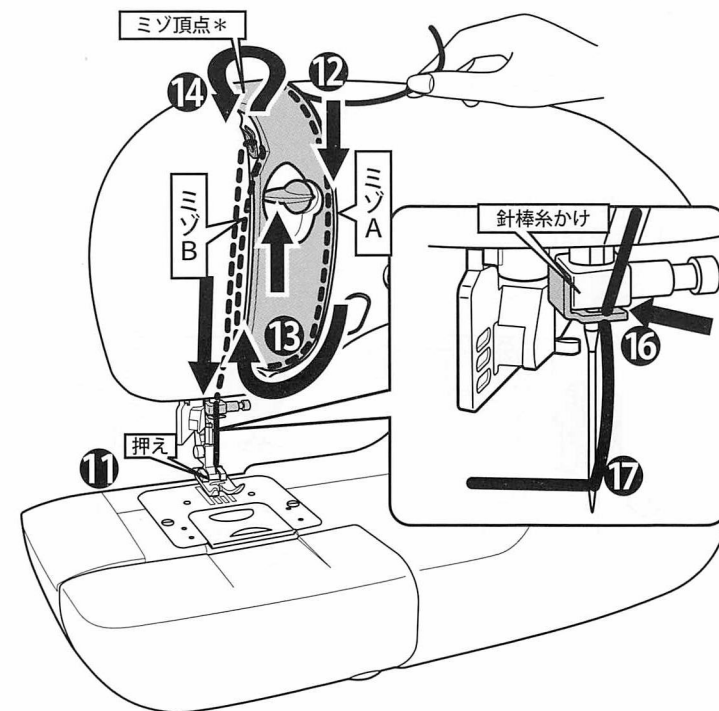
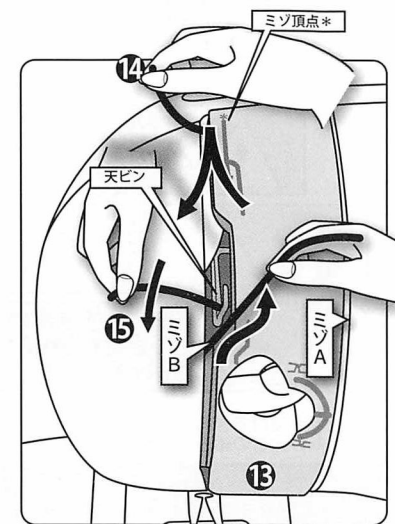
15. 天ビンに糸がかかっていることを確認します。

天ビンに糸がかからないときははずみ車の針上位置マークを合わせ、糸かけ2まで戻り、もう一度11. からかけなおしてください。

16. 針棒糸かけに右から糸をかけます。

17. 針穴に糸を通します。

針穴の糸は糸通し器を使って通すことができます。(糸通し器の使いかたP20参照)



糸通し器の使いかた

このミシンは面倒な針穴の糸通しをミシンに装備されている糸通し器を使って、簡単に通すことができます。

注意



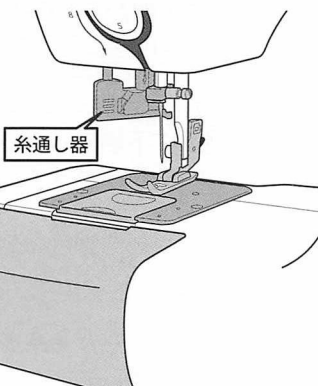
電源スイッチを「OFF」にする
ケガをする恐れがあります。



針先に注意!
ケガをする恐れがあります。



糸通し器を下げすぎない
動いているときに、糸通し器を操作しない
部品を破損する恐れがあります。

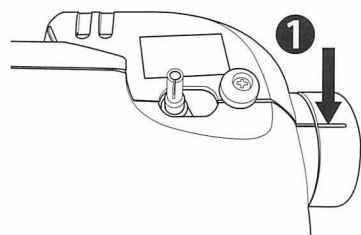


糸通し器が使用できる
針と糸の太さの組み合わせ

針	糸
11	60番/80番/100番
14	50番/60番/80番
16	50番/60番

1. はずみ車の針上位置マークをあわせませ
ず。

マークをあわせると、針が上がり糸通し器が
使えるようになります。マークがあっていな
いと部品を破損します。

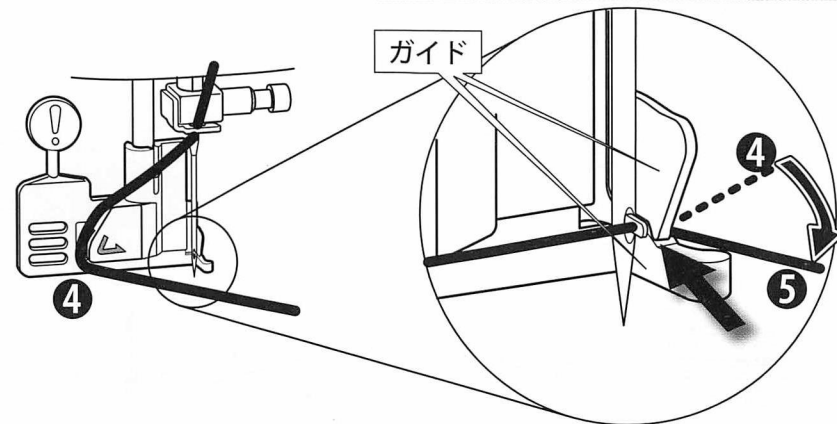
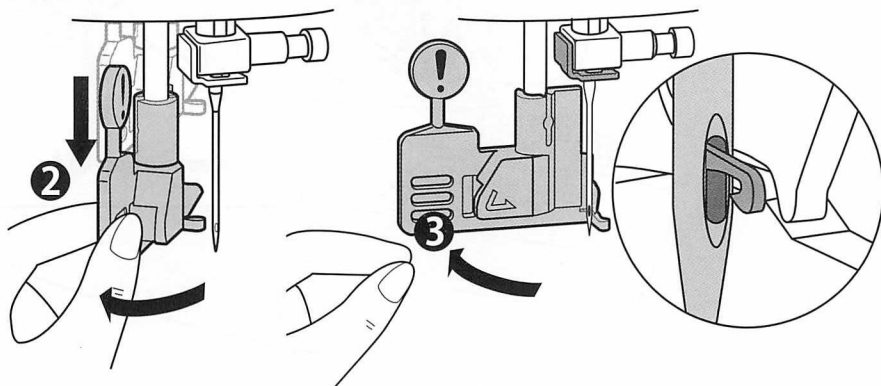


2. 糸通し器をつまみ、引き下げます。

下げ過ぎると抜けてしまうことがあります。抜けた
ときは向きをまちがえないように軸の下から
強く押し上げてください。

3. 糸通し器を下げたまま矢印の方向に回転
させ、手を離します。

糸通し器が上に戻ってしまうときははずみ車の
針上位置マークをもう一度確認してください。



4. 針止め糸かけから糸通しフックの糸かけ部分に糸を
かけ、拡大図のように上下のガイドの間に差し込み
ます。

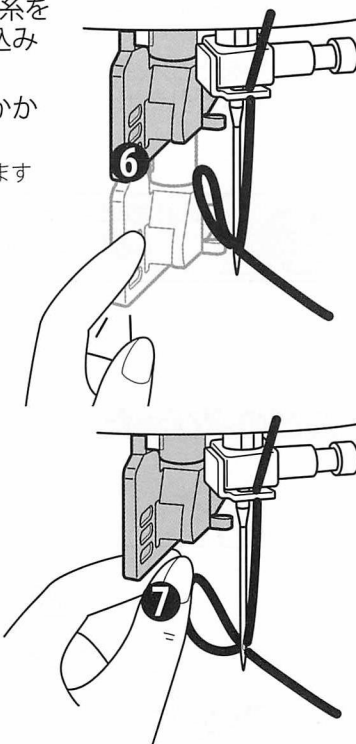
5. そのまま糸を手前に引くと針穴のフックに引っかか
ります。

引っかかったときに糸を引くと、L型になり確認できま
す

6. 糸通し器を戻します。

糸が針穴に通ります。

7. 針穴うしろの糸の輪を引き出します。

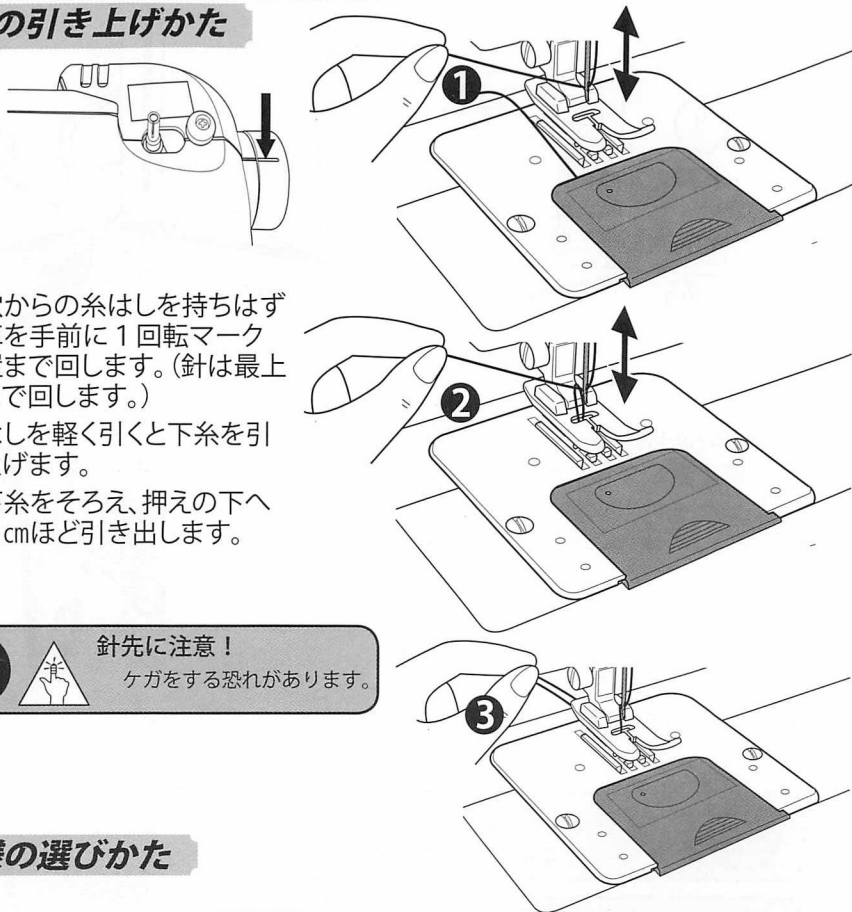


針先に注意!
ケガをする恐れがあります。



曲がった針を使用しない
部品を破損する恐れがあります。

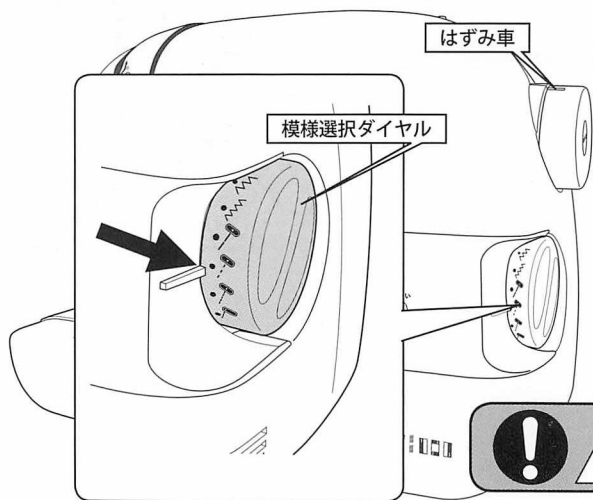
下糸の引き上げかた



1. 針穴からの糸はしを持ちはずみ車を手前に1回転マーク位置まで回します。(針は最上点まで回します。)
2. 糸はしを軽く引くと下糸を引き上げます。
3. 上下糸をそろえ、押えの下へ10cmほど引き出します。

! 針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

模様を選びかた



! はずみ車を手前に回し、針を上げます
針が刺さったまま模様選択ダイヤルをまわすと、針が折れ、ケガをする恐れがあります。

模様選択ダイヤルを回し、お好みの模様になります。
(ダイヤルはどちらにも回ります)

! 針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

縫い模様の種類

! 針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

! はずみ車を手前に回し、針を上げます
針が刺さったまま模様選択ダイヤルをまわすと、針が折れ、ケガをする恐れがあります。

模様									
呼び名	直線				ジグザグ				点線ジグザグ
	左基線	中基線			幅小	幅中	幅大	密着縫い	
		小	中	大					
押え	標準押え (ジグザグ押え)								

模様									
呼び名	まつり縫い	伸縮まつり縫い	伸縮縫い	縁かがり縫い	強化ジグザグ縫い	強化直線縫い	ボタンホール		
							サイドステッチ 左側	かんぬき止め	サイドステッチ 右側
押え	標準押え (ジグザグ押え)						ボタンホール押え		

※ 押えの交換方法はP10をご覧ください。

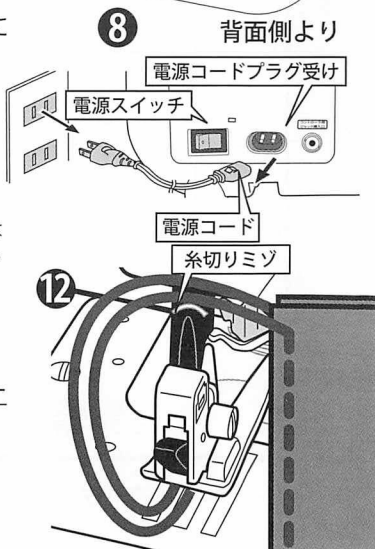
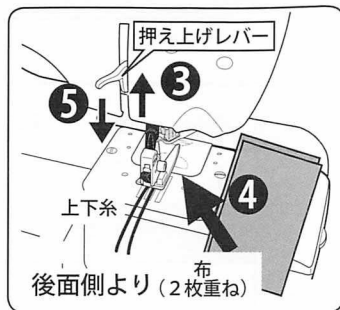
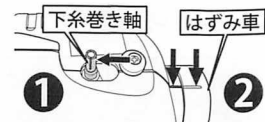
ためし縫い

! 下糸巻き軸を左側にする
下糸巻き軸が右側にあると、針が上下しません。

! 針先に注意！
ケガをする恐れがあります。

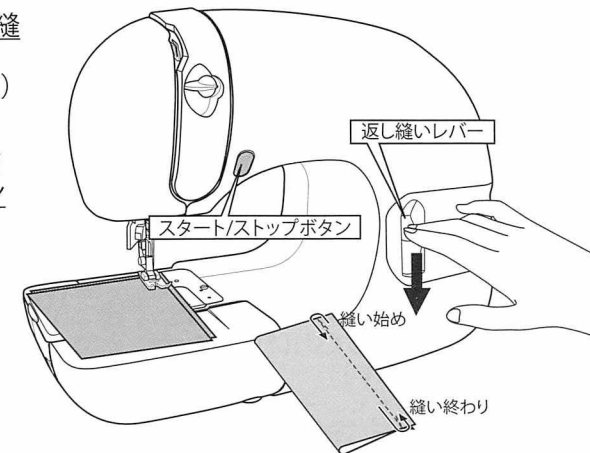
上下糸をかけ、縫う準備ができると、はじめに布の切れ端など2枚用意し、縫い調子を確認します。

1. 糸巻き軸を左側にします。
ミシンで縫う状態になります。
2. はずみ車を手前にまわし、針・天ピンを上にします。
3. 押え上げレバーを上げ、上下糸をそろえて押えの下・後側へ10cm程のばします。
4. 押えの下に準備した布を2枚重ねで置きます。
針先の真下が縫い始める位置になります。
5. 押え上げレバーを下げます。
押えが下がり、布を固定します。
6. 模様選択ダイヤルをまわし、縫いたい模様にします。
7. スピード調整ツマミを「おそい」にします。
ミシンの速度に慣れるまでです。
8. 電源コードを接続し、電源スイッチを「ON」にします。
ランプが点灯し、動く準備ができます。
9. 上下糸の端を軽く後側に持ち、はずみ車を2～3回転まわして糸が絡まず縫えることを確認します。
カマ付近で「ガチャガチャ」と音がするときは縫えないときが多く、スタートさせても絡んでしまいます。上糸と下糸のかけ方をもう一度確認してください。
10. スタート/ストップボタンを押します。
ミシン針が上下し、縫い始めます。
11. 縫い終わる位置に到達したら、もう一度スタート/ストップボタンを押し、ミシンを止めます。
12. 布を後側に引き出し、上下糸をそろえて押え棒後側の糸切りミゾに引っ掛け、引きます。
上下糸が切れ、布が取り出せます。



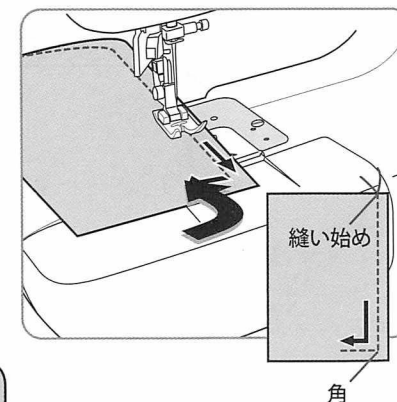
返し縫い

1. 返し縫いレバーを押し下げながら、スタート/ストップボタンを押します。
返し縫いレバーを下けている間は布が後進します。
2. 返し縫いレバーから手を離します。
布が前進します。
3. 縫い終わりでもう一度返し縫いレバーを下げます。(ミシンは動いている状態のまま)
布が後進します。
4. 返し縫いレバーを下げたまま、スタート/ストップボタンを押します。
ミシンが停止します。



縫い方向のかえかた

1. 布の角まで到達したら、スタート/ストップボタンを押し、ミシンを止めます。
2. 布の角に針をいっぱいまで刺します。
はずみ車を手前に回し、針を下げます。
3. 押え上げレバーを上げます。
布は針を中心に自由に回転できます。
4. 針を中心に運針方向を変えます。
5. 押え上げレバーを下げます。
6. 再び、スタート/ストップボタンを押し、縫い始めます。



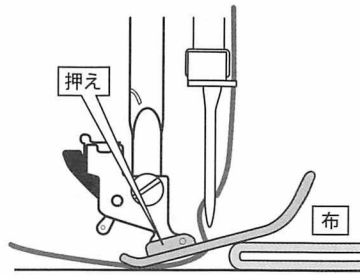
! 針先に注意！
ケガをする恐れがあります。

厚い布の縫い始め/段縫い

厚地の布はしから縫い始めるときは、押えが傾きスムーズに布が進まないことがあります。

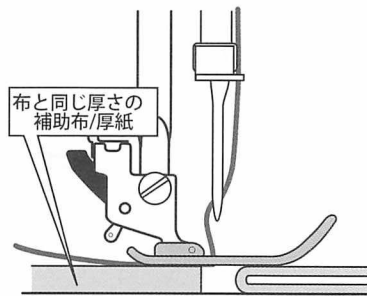
1. 押えを上げ、布を入れます。
2. 押えの後側に同じ厚さの布や厚紙を置きます。

押えが水平になり、布が引っかかりなくなります。



段縫い(布が重なり急に厚くなる部分)では、布が進まなくなることがあります。

1. 布が厚い部分の手前で止めます。
2. 押えが水平になるところまではずみ重を手でまわし、縫い進めます。(縫い速度を「ゆっくり」にして進む場合もあります)
3. 再びスタート/ストップボタンで縫い進めます。(縫い速度を戻して縫い進めます)

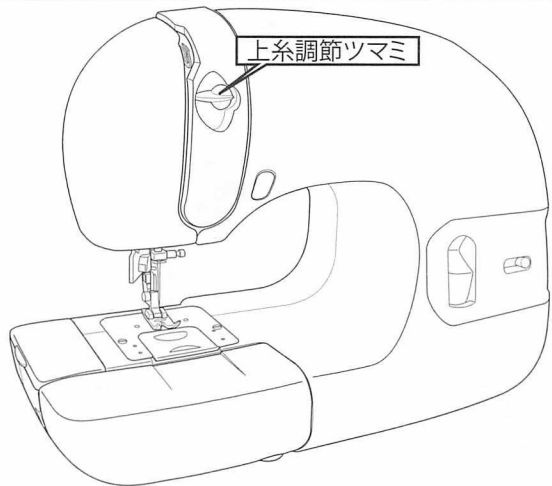
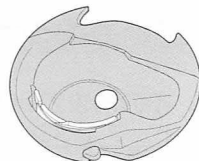


上下糸調子のとりかた



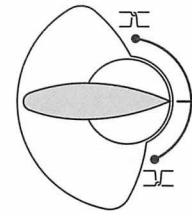
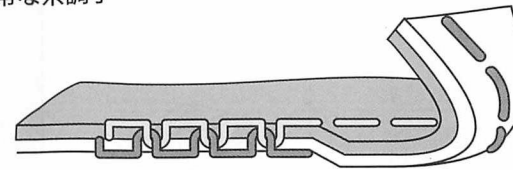
ボビンケース(下糸)のネジは調整しない

一度調整ネジを回すともとの状態に戻らなくなります。次に縫うときに上下糸が合わせられなくなります。



縫い上がりの糸調子が合っていないときは、上糸を上糸調節ツマミで調節ができます。

正常な糸調子



上糸調子の基本位置

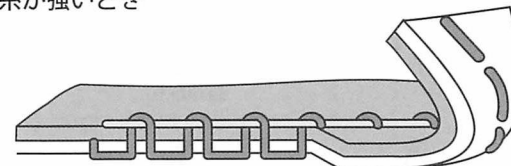
自動上糸調子です。一般的な布・糸は基本的に上糸調節つまみを自動(水平)にします。



上糸調子は少しずつ回してください

上糸調子が合いにくくなります。

上糸が強いとき



上糸がつまっているときは上糸を弱めます。



右に回すと上糸が弱くなります

下糸が強いとき(上糸が弱いとき)

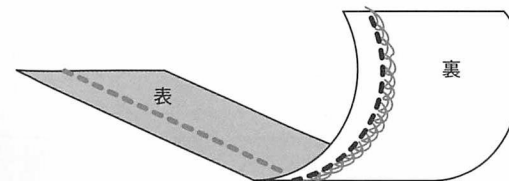


下糸がつまっているときは上糸を強めます。



左に回すと上糸が強くなります

布の表がきれいに見え、裏がタオル地のような場合は、上糸の調子が弱すぎるか上糸のかけかたが間違っています。もう一度、上糸をすべて抜きとり、P17~21をご覧になり、正しくかけなおしてください。また、上下糸調子に従って調整してください。



ジグザグ縫い模様/縁かがり

針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

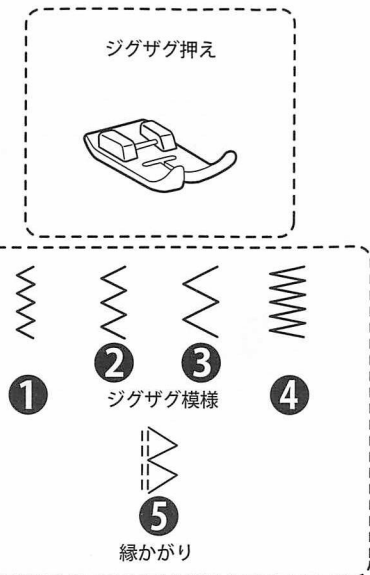
模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

下糸巻き軸を左にしてください
下糸巻き軸が右にあると針が上下しません。

1. はずみ車を手前に回し、針・天ビンを上げます。

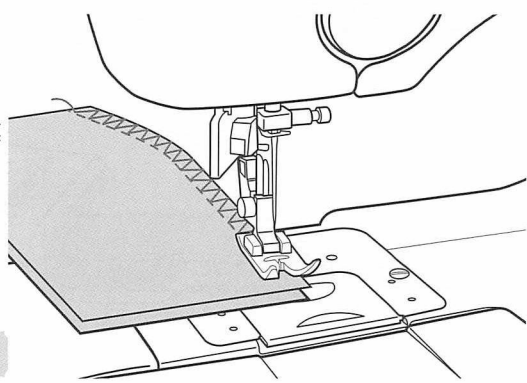
2. 模様選択ダイヤルをジグザグ/縁かがり縫い模様にあわせます。

ジグザグ模様は布のほつれ止め端縫い、伸縮性の布を縫うなどいろいろな用途に使えます。



ワンポイントアドバイス

ジグザグ/縁かがり縫い模様は直線模様と比べ、糸調子をわずかに弱くするときれいに仕上がります。



ボタンホールの作りかた

- 準備
- 1. ジグザグ押えをはずし、ボタンホール押えを取り付けます。
- 2. ボタンの大きさと厚さ、布の種類に応じてボタン穴の長さを決めます。

※ 押えの取りかえかたはP12をご覧ください。

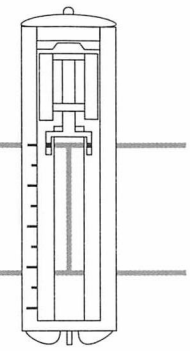
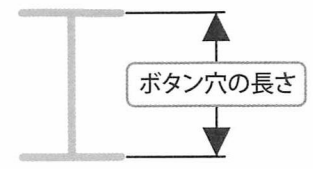


下糸巻き軸を左にしてください
下糸巻き軸が右にあると針が上下しません。

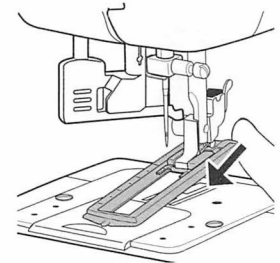
模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

ボタン穴の長さ=ボタンの直径+厚み



ボタンホール押えは下げるときに外枠を手前に引いておきます。



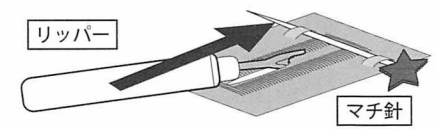
ボタンホール押え外枠は前後にスライドします。

3. 布をボタンホール押えの下に置き、押えの赤い線を布の縫いはじめの線に合わせます。さらに、ボタン穴の中心線が押えの穴の中央にしてボタンホール押えを下げます。

模様	1	2	3	4
縫いかた	<p>A~Bの位置でミシンをとめます</p>	<p>5~6針かんぬき止めをし、ミシンを止めます</p>	<p>A~Bの位置でミシンをとめます</p>	<p>5~6針かんぬき止めをし、ミシンを止めます</p>

●ボタンホールができたら

1. 付属のリッパーで切り開きます。
切りすぎないようにマチ針等(ストッパー)を使用します。



先端に注意する
(リッパー、マチ針)
ケガをする恐れがあります。

まつり縫い



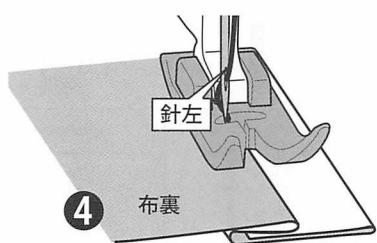
模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



針先に注意！
ケガをする恐れがあります。

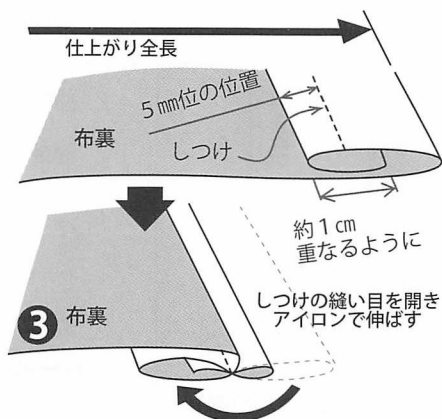
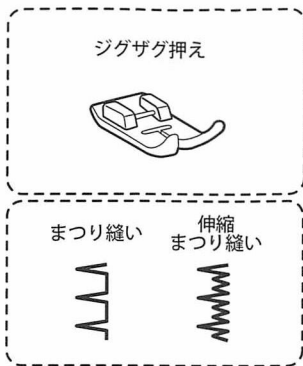
1. はずみ車を手前にまわし、針・天ビンを上げます。
2. 模様選択ダイヤルをまわし、まつり縫い模様を選びます。

ズボンやスカートの裾上げ、袖口の裁縫に用います。服の寸法直しなどにもご利用いただけます。

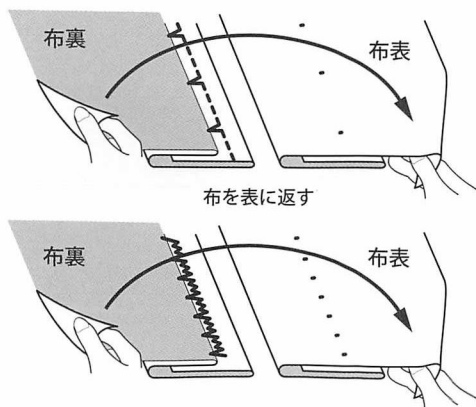


3. 布を右図のように折り、しつけます。
4. はずみ車を手前に手でゆっくりまわし、針が左側のときに布端がわずかにかかる位置で押えを下げます。
5. スタート/ストップボタンを押し、ゆっくり最後まで縫います。
6. 布を返し、しつけ糸を抜きます。

まつり縫い模様では針が左のとき、布の折山にかかる量が少ない程きれいに仕上がります。また、針が折山をはずれると仕上がりに目とびになります。



縫い始めるときは、押えを下げます
糸が絡み、縫い損じになります。



点線ジグザグ縫い



針先に注意！
ケガをする恐れがあります。



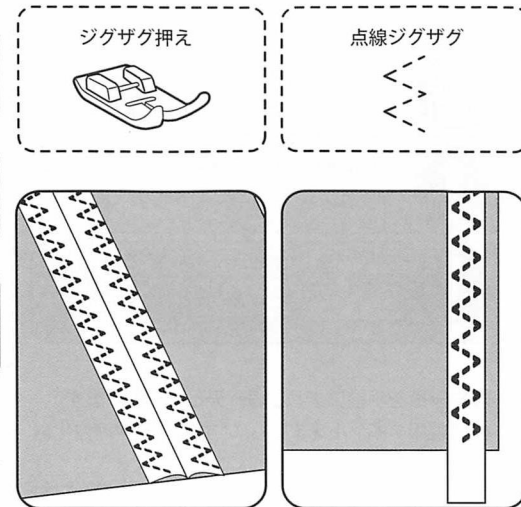
下糸巻き軸を左側にします
下糸巻き軸が右側にあると、針が上下しません。



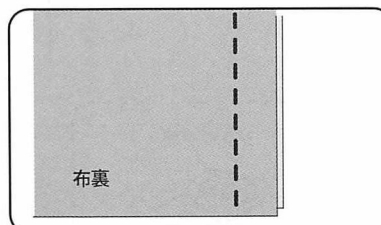
模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

1. はずみ車を手前にまわし、針・天ビンを上げます。
2. 模様選択ダイヤルをまわし、点線ジグザグ模様を選びます。

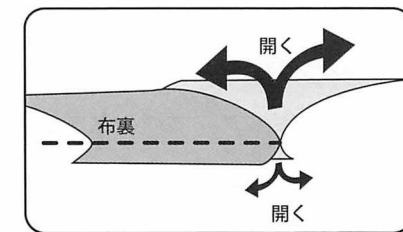
ジャージやトリコットなどの伸縮性のある布の縫製に適した模様です。布がのびても縫い糸が切れず、伸縮性布の縁かがりやゴムひもの縫い付けにも利用できます。



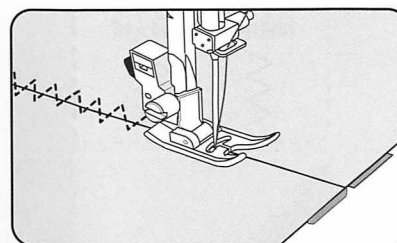
パッチワーク



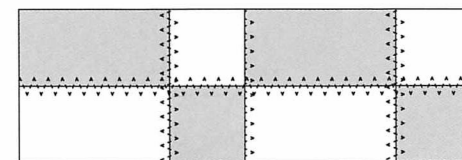
1. 2枚の布の表を合わせ、直線縫いで縫い合わせをします。



2. 縫い合わせを開きます。






3. 両方の布に模様がまたがるように縫い進みます。



いろいろな布を縫い合わせ、装飾に使います。

伸縮強化縫い

-  **針先に注意!**
ケガをする恐れがあります。
-  **下糸巻き軸を左側にします**
下糸巻き軸が右側にあると、針が上下しません。
-  **模様選択時は針を上げます**
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

1. はずみ車を手前にまわし、針・天ピンを上げます。
2. 模様選択ダイヤルをまわし、いずれかの伸縮強化縫い模様を選びます。

ジャージ／メリヤスなどの伸縮性布や力がかかりほつれやすい部分、デニムなどの丈夫な布の縫い合わせに最適です。

伸縮性布を縫う場合は、ニット針を使うと、目とびや糸切れを防ぐことができます。

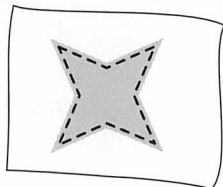
アップリケ

市販や自作のアップリケ布を丈夫に縫い付けます。

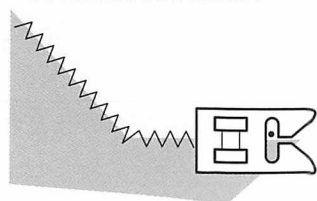
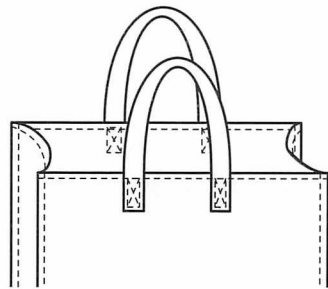
1. アップリケ布をしつけします。(のり付けやしつけ)
2. アップリケ布の布はしを縁かがりと同じ要領で縫い進めます。

急な角度を縫う場合は、布はしに針を刺して押えを上げ、布をまわします。

のり付けまたはしつけ




三重直線縫い模様は布をのばしても縫い糸は切れません。また、非常に強く伸びない縫い模様です。



お手入れのしかた

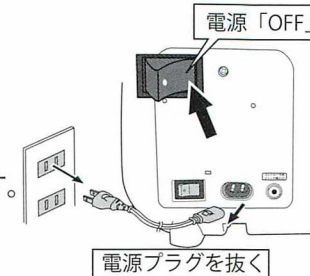
-  **注意**
-  **電源プラグを抜く**
突然動くとケガをする恐れがあります。

カマの中にほこりや糸くずがたまるとミシンの回転が重くなるだけでなく、故障の原因になります。次の手順で掃除や確認を行ってください。

-  **針ははずします**
ケガをする恐れがあります。

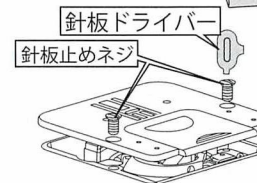
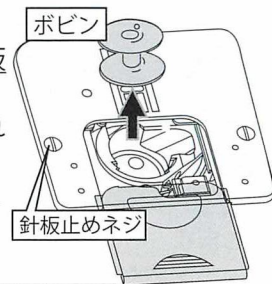
●お手入れのまえに


1. 電源スイッチを「OFF」にし、電源コードを抜きます。
2. 上糸、下糸(ボビン)をはずします。
3. はずみ車をまわし、針を上げます。
4. 付属の針板ドライバーで針止めネジをゆるめ、針をはずします。
5. 押え上げレバーを上げ、押えをはずします。




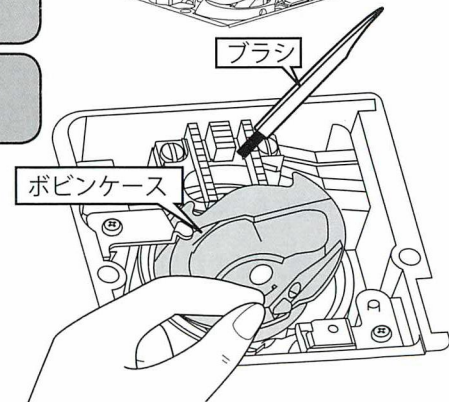
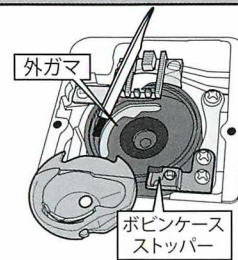
●ゴミを取る(外ガマ中と送り歯ミヅ)

6. 針板をはずします。(針板止めネジ2本を付属の針板ドライバーではずします)
7. ボビンケースがボビンケースストッパーにセットされていることを確認します。
ミシン運転時はボビンケースが回転しません。ボビンケースストッパーによって止められています。
8. ボビンケースをはずします。
ボビンケース手前を持ち上げ、引き出します。
9. 外ガマのほこりや糸くずを取り除きます。
付属のブラシを使用します。



-  **掃除中ははずみ車に触れない**
ケガをする恐れがあります。

-  **外ガマの先端に触れない**
ケガをする恐れがあります。



●ボビンケースを装着する

- ボビンケース外周のへこみ部分を送り歯の下に挿入し、水平に外ガマの上に置きます。

7のボビンケースストッパーと同様にセットされていることを確認します。

- カマとボビンケースから手を離し、はずみ車が抵抗なくまわすことを確認します。

ボビンケースは回転しません。外側の外ガマのみ回転します。

- 針板をのせ、針板止めネジでしっかり固定します。

- もう一度、はずみ車をまわします。

正常にセットされているかを確認します。



外ガマの先端に触れない
ケガをする恐れがあります。



カマ部分は注油しない
糸が絡み、故障します。

●ランプの交換

- 電源コードが抜けていることを確認します。

ランプは熱くなっているので、電源を切り、十分にさましてから作業をします。

- ランプのカバー部分下から指を挿入し、電球をはずします。

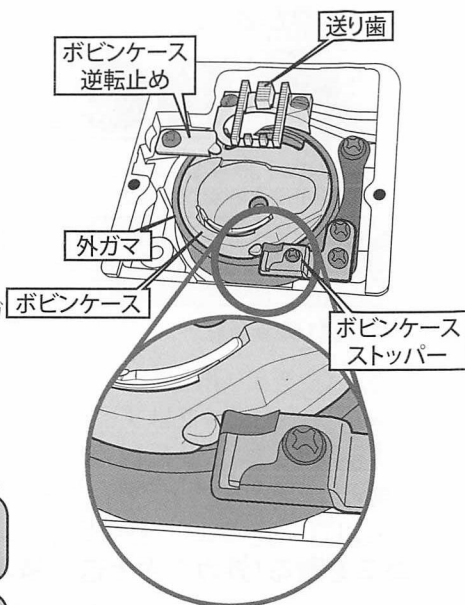
図の方向に電球をまわすとはずれます。

- 新しい電球を下から挿入し、取り付けます。

図の方向に電球をまわすと取り付けられます。

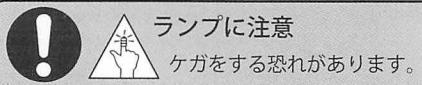
●注油

このミシンは注油の必要がありません。長期間ご使用にならない場合は、ほこりや油の乾燥などで動かなくなることがあります。ご購入店または当社のサービス係にお問い合わせください。



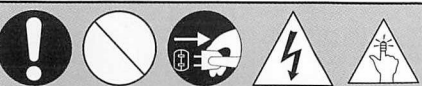
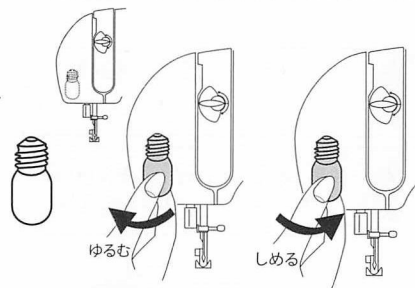
電源コードははずします

ケガをする恐れがあります。



ランプに注意

ケガをする恐れがあります。



はずみ車がまわらないときは、電源を切る
ケガをする恐れがあります。
破損や故障をします。

こんなときは(調子が悪いとき)

不具合	原因	処置	参照ページ
布を送らない	●縫い目の長さが布に合っていない	模様を選び直します	P22,23
	●送り歯に糸くずやゴミがたまっている	掃除します	P33,34
	●押えが下がっていない	押え上げレバーを下げます	P10
針が折れる	●布を無理に引っ張っている	手は布にそえるだけにします	P24
	●針の取り付けかたをまちがっている、しめかたがゆるい	正しくつけ直します	P9
	●布に対してはりが細すぎる	布と糸、針の関係を合わせます	P8
	●糸調子が強すぎる	上糸調子を微調整します	P26,27
回転が重く、音が大きい	●カマの中に糸くずやゴミがたまっている	針板をはずし、掃除します	P33,34
	●送り歯のミヅにゴミがたまっている	針板をはずし、送り歯を掃除します	P33,34
縫い目に輪ができる	●ボビンのセットを間違っている	正しくセットします	P16
	●糸のかけかたをまちがっている	正しくかけなおします	P17~19
	●糸調子が合っていない	適正な強さに調節します	P26,27
布の裏がタオル状になる	●上糸のかけかたがまちがっている	正しくかけなおします	P17~19
	●上糸調子つまみが「弱」になっている	適正な強さに調整します	P26,27
	●押えが下がっていない	押え上げレバーを下げます	P10
ミシンが動かない	●電源コードの差し込みが不十分	しっかり差し込みます	P11
	●電源スイッチが入っていない	電源スイッチを入れます	P11
	●下糸巻き軸が右になっている	下糸巻き軸を左にします	P17,24

不具合	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	●糸のかけかたをまちがっている	正しくかけなおします	P17~19
	●ボビンケースに糸がからんでいる	からんだ糸を取り除きます	P33,34
	●針の取り付けかたをまちがっている	正しくつけなおします	P9
	●糸調子が強すぎる	適正な強さに調節します	P26,27
	●布に対して糸が強すぎる	布と糸、針の関係を合わせます	P8
下糸が切れる	●ボビンのセットをまちがっている	正しくセットしなおします	P16
	●ボビンケースに糸がからんでいる	からんだ糸を取り除きます	P33,34
	●カマに糸くずがたまっている	掃除をします	P33,34
	●下糸の調子が強すぎる	上糸がはずれています	P17~19
縫い目が飛ぶ	●針の取り付けかたをまちがっている	正しくつけなおします	P9
	●針が曲がっているか、先がつぶれている	針を交換します	P9
	●布に対して糸と針が合っていない	布と糸、針の関係を合わせます	P8
縫い目にしわができる	●糸のかけかたをまちがっている	正しくかけなおします	P17~19
	●ボビンのセットがまちがっている	正しくセットしなおします	P16
	●針の先がつぶれている	針を交換します	P9
	●糸調子が強すぎる	適正な強さに調整します	P26,27

この説明書に記載されている不具合および、それ以外の不具合または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または次ページの「サービス係」にお問い合わせください。

サービス工場のご案内

純正部品のご購入は購入点または、下記のサービス工場へお申し込みください。

ご購入いただきましたミシンは、下記の専門工場で点検修理等のサービスをいたします。なお、サービスには有償と無償の場合がありますのでサービス工場にお問い合わせの上、ご送付ください。

※ご送付のときは、このミシンの箱と発泡スチロールをご利用ください。

送付先

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺3-12-5
TEL 06-6717-5851

株式会社 アックスヤマザキ サービス係 行
☎フリーダイヤル 0120-405-851

(月曜~金曜 午前9:00~12:00
午後1:00~5:00 土曜・日曜・祭日休み)

仕様

形式	YM81Aタイプ	周波数	50Hz/60Hz
寸法	幅38.5cm:奥行17.0cm:高さ28.0cm	カマ形式	水平全回転カマ
重量	5.7kg	ボビン	HAプラスチックボビン
定格電圧	家庭用交流電源 100V	押え高さ	針板面より約6mm
消費電力	55W(口径E12ランプ5w含)	最大送り長さ	3.8mm
適用針	HA×1 #9~#16	最大針振幅	5.0mm

※上記は予告なく変更される場合があります。

保証書

機種	YM-81A		機械番号		※印欄に記入のない場合有効とはなりませんので、必ず記入の有無をご確認ください。もし、記入がない場合は、ただちにお買い上げの販売店にお申し出ください。本書は、再発行しません。大切に保管してください	
※お買い上げ日	年	月	日	保証期間		お買い上げ日より本体1年
※お客様	ご住所	〒 - TEL - -				様方
	ご氏名					
※販売店	住所	〒 -				
	店名	TEL - -				

無料修理保証について

本記載内容で、無料修理させていただくことをお約束するものです。

お客様の取扱説明書、本体添付ラベルなどの注意書きによる正常なご使用状態で、保証期間中に故障した場合には、商品と本書をご持参、ご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。無料修理させていただきます。

なお、保証期間中の修理など、アフターサービスについてのご不明な点は、お買い上げの販売店または直接下記へご相談ください。

次のような場合は、保証期間内でも有料修理になります。

ご使用上の誤りや不当な修理や改造による故障および損傷。

お買い上げ後の落下や運送上の故障および損傷。

火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、異常電圧、及びその他の天災地変による故障および損傷。

本書のご提示がない場合。

本書にお客様、お買い上げ日、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書きかえられた場合。

一般家庭用以外(たとえば業務用など)にご使用の場合の故障および損傷。

ご使用後の傷、変色、汚れ、及び保管上の不備による損傷。

消耗品の交換。

本書は日本国内においてのみ有効です。

This Warranty is valid only in Japan.

ご転居の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。

ご贈答品などで本保証書に記入してあるお買い上げ販売店に修理ができない場合には、直接下記へご相談ください。

※この保証書は、本書によって明示された期間、条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものではありません。したがって、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。なお、ご不明な点については、お買い上げの販売店または下記へ直接お問い合わせください。

【輸入製造元】



〒544-0022 大阪市生野区舍利寺3丁目12番5号
TEL (06) 6717-5851~3/FAX (06) 6741-7875

株式会社 アックスヤマザキ

PRINTED IN TAIWAN